

(様式1)

## 令和7年度 学校経営計画

### 1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、心身ともに健康で、自分らしく人や社会とつながろうとする児童生徒を育成する。

### 2 学校の特色

- ・ 本校は県中央部に位置し、知的障害を主障害とする児童生徒を教育の対象とする特別支援学校である。小学部から高等部まで296名の児童生徒が学んでおり、県内では最も規模が大きい。
- ・ 児童生徒一人一人の興味・関心、意欲を大切にしながら、個々の教育的ニーズに応じた個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、保護者や関係機関と連携して系統的な指導を行い、児童生徒の可能性を最大限に伸ばすことを目指している。
- ・ 健康な体と体力つくりのために積極的に運動を取り入れている。
- ・ 将来の地域社会における生活基盤を確立するため、学校行事を通して社会的な経験を広げるとともに近隣の学校やボランティアサークル等との交流及び共同学習に力を注いでいる。

### 3 学校の現状と課題

- ・ 児童生徒の実態の多様化に伴い、一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、障害の特性を踏まえた最適な支援を行うことがより求められるようになってきている。児童生徒の自立や社会参加につながる主体的な学びによる将来目指す姿の実現に向けて、教職員の専門性、および資質・能力の向上が不可欠である。そのために本校では、一人一人が目指す具体的な姿をイメージして「目指す児童生徒像」と、その実現に向けた多様な学びを支える教職員の「スタッフポリシー」を作成し、様々な場面での意見交換や研修の機会を通して、指導・支援の充実を図り、教職員の資質や能力、チーム力を高め、真摯に児童生徒と向き合う姿勢や専門性の向上に取り組む必要がある。
- ・ 全国的に自然災害が多発している中、本校でも例年火災や地震を想定した避難訓練を実施している。本校の立地を踏まえると、災害時の適切な対応や安全で早急な避難が必要であり、そのためには、状況の具体的な学習や実際の体験活動による児童生徒の主体的な避難行動意識の向上に加えて、避難後の安全で確実な保護者への引き渡し体制の構築が求められることとなる。そこで、避難から避難後の保護者引き渡しの実施に向けて、災害状況や周辺被害の把握や保護者集合時の対応など、災害発生から引き渡しまでのマニュアルの見直しを行い、防災意識の向上に努めていく必要がある。
- ・ 本校では、一人一台端末の使用による児童生徒の実態に合わせたICTを活用した学習に取り組んでいるが、その反面、一人一台端末を使った手軽な検索や画像・動画の視聴機会が多くなり、たくさんの中から選んだり、探して読んだりすることが減り、児童生徒の活字離れ、読書離れが強まる傾向にある。また、障害の重度化・多様化に伴い、言葉や文字による学びが困難な児童生徒が増えてきていることも、活字離れ、読書離れの一因となっていると考える。そこで、委員会活動を中心にして、読み聞かせや図書の紹介など、児童生徒が興味関心をもって主体的に参加したり、実態にかかわらず取り組んだりできる活動を設定することで、ICT活用と並行して、読書活動等を通じた言葉や文字による学びを深めていきたい。

(様式2)

#### 4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	・校務支援システムの運用を通して、文書作成等の業務の効率化を図る。
		計画 教務	・校務支援システムの効率的な運用に向けて、基礎データ、マスタ設定等の準備を計画的に行う。 ・教職員向けの校務支援システム研修会を行い、活用できるようにする。 ・校務支援システム運用実施計画を示し、段階的に運用を開始する。
		目標	・「指導と評価の一体化」の視点から、学習活動や支援方法を工夫、検討しながら授業を実践することで、児童生徒の資質・能力を効果的に育成できるようにする。
		計画 研修	・資質・能力の三つの柱を育成するための多様な学習活動と評価の三観点についてあらためて整理し、授業実践につなげる。 ・各教科等を合わせた指導についての目標設定および評価について研修を行う。 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、学習評価に基づいて授業づくりを行う。
	重点3	目標	・児童生徒の読書活動推進のため、図書室や掲示などの読書環境を整える。
		計画 情図	・児童生徒が利用しやすい図書室となるよう、書架や書籍の配置等の環境を整える。 ・生徒会図書委員会と連携して、新着本やお薦めの本の紹介方法を工夫する。
2	学校生活	目標	・児童生徒のより安全な登下校支援の徹底を図る。
		計画 生指	・担任や学年主任の協力を得ながら、下校方法の確認を確実にを行うとともに、毎日下校の引き渡し時にデイサービスの職員に児童生徒の確認を行ったり、通学バスの介助員に引き渡し児童生徒の情報を確実に伝えたりする。 ・行事等で変則的なバス運行の場合であっても、児童生徒がスムーズに降車及び引き継ぎができるよう文書などで早めに保護者等に連絡し、保護者や各バス会社デイサービス等の理解と協力を得る。
		目標	・災害時の防災マニュアルや引き渡し時のマニュアルの見直しを行うとともに、児童生徒が少ない支援で自ら行動できるよう災害に対する防災意識の向上を図り、教職員の災害時の対応力を高め、学校防災体制をより強固なものにする。
		計画 生指	・避難訓練、防災学習等の機会を通して、児童生徒に繰り返し防災の大切さ及び具体的な行動を指導する。 ・能登半島地震等を想定するなど、より現実的な災害を想定した避難訓練や引き渡し訓練を実施する。
		目標	・学校内外で児童生徒が安全に活動できるようにするために、不審者対応に関して全職員の共通理解を図る。
		計画 生指	・校内での不審者対応について、警察官を招へいし研修を行うとともに、常に県内の不審者情報を共有するなどして防犯体制を強化する。 ・全ての保護者に安心安全メールに登録してもらい、不審者情報など共通理解が必要な内容については、随時安心安全メール等で知らせ、全教職員及び保護者に周知する。
		目標	・児童生徒が安全・安心な学校生活を送るために、実態に応じた健康管理の充実に努めるとともに、教職員の危機管理に対する意識や対応力の向上を図る。
		計画 保健	・児童生徒の生活習慣や健康状態を把握して好ましい習慣形成を図ったり、感染症対策の基本的知識やスキルの向上を図ったりする。 ・緊急時の対応訓練や学校生活環境の整備を行うことにより、緊急時に適切な対応ができる体制を整える。

3	進路支援	目標	・一人一人のニーズに応じた進路選択ができるよう、進路支援の充実を図る。
		計画 進路	・児童生徒や教職員が障害福祉サービス事業所の様子がイメージできるように動画やパンフレットをタブレット端末で閲覧できるようにする。 ・進路説明会や進路相談会前に教職員への情報共有の場を作り、進路支援の充実を図る。
4	特別活動	目標	・主体的に挨拶できる児童生徒の育成を図る。
		計画 特活	・児童生徒が、学校生活において、身近な人に進んで挨拶できるように、児童生徒会執行部員が中心となって「あいさつ運動」や「ポスター作り」などを実施する。 ・学級を中心に、児童生徒の実態に合った挨拶に関する指導を行う。 ・挨拶の定着を図るために、学校での挨拶に関する取り組みを家庭に伝え、日常的に家庭や地域で挨拶が交わされるように働き掛ける。
		目標	・学校間交流及び地域交流活動を工夫して実践し、本校の児童生徒についての理解・啓発を図る。
		計画 学部 特活	・地域の小中学校や警察学校生徒、ALTとの交流において、一緒に関わりながら活動する場を設定し、相互理解が深まるようにする。 ・地域の文化祭へ作品を出品したり、地域住民と交流したりすることを通して、本校を知ってもらう機会を作る。
5	重点1          その他	目標	・「目指す児童生徒像」「しらとりスタッフポリシー（試案）」を踏まえた教育活動を具現化するための研修等を企画・実施し、教職員の資質・能力及びチーム力の向上を図る。
		計画 チーム力 向上PT	・専門性を担保する上で、しらとり支援学校のスタッフが身に付けておくべき事柄について、機を捉えて話題提供を行う。 ・教職員のニーズに基づいた勉強会を企画し、教職員が主体的に学ぶ機会の充実を図る。
		目標	・児童生徒や保護者にとって有意義なPTA事業を計画・実施する。
		計画 総務	・児童生徒の実態や保護者のニーズに応じた事業内容となるように、PTA会員及び役員と相談しながら計画する。 ・PTA役員と協力し、事業を計画的に進め、実施する。
		目標	・学校ホームページの充実を図り、保護者や地域に学校での活動や取組を分かりやすく情報発信する。 ・児童生徒が主体的に学習できるように、タブレット端末等のICT機器を活用する。 ・教員のICT活用指導力の向上を図り、授業実践に活かす。
		計画 情図	・学校での活動や取組が分かるように、できるだけ多くの学校行事の様子をホームページに掲載する。 ・児童生徒が有効に使えるアプリや活用事例の紹介などを実施し、児童生徒のICT活用を進める。 ・ICT機器の活用事例やアプリを紹介する研修会を定期的実施する。
		目標	・寄宿舎の規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣やマナーを身に付けるよう具体的な支援の充実を図る。 ・学校と寄宿舎が連携し、児童生徒の生活支援の充実を図る。
		計画 舎	・一人一人の実態に応じた生活支援目標を設定し、自立に向けた支援を系統的に行う。 ・学級担任、家庭との連携を密にし、共通理解と協力のもとに効果的な生活支援となるように努める。 ・学級の授業で活用している支援ツール等を取り入れ、生活支援に生かす。
		目標	・知的障害のある幼児児童生徒の適切な学びの場の選択につながるよう、就学・進学に関わる行事や相談等の充実を図る。
		計画 教相	・本校教育活動への理解を深めたり、就学・進学についての適切な情報提供を行ったりできるように、学校見学会や体験入学等の実施方法や就学相談のもち方を見直す。 ・「就学・進学相談Q&A」や「教育相談用ファイル」を活用し、相談者のニーズに応じた適切な情報提供ができるよう努める。

(様式3)

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 富山県立しらとり支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	その他（チーム力の向上）	
重点課題	「目指す児童生徒像」「しらとりスタッフポリシー(試案)」に基づく指導・支援の充実	
現 状	<p>「目指す児童生徒像」実現に向けて、児童生徒のための指導・支援を行う際のスタンスとしての「しらとりスタッフポリシー(試案)」を令和6年度版として全教職員の意見をもとに策定した。</p> <p>「目指す児童生徒像」「しらとりスタッフポリシー(試案)」を踏まえた教育活動を具現化するための必要な姿勢と専門性を担保するためには、教職員が主体的に学ぶ機会を設定することが有効ではないかとの見立てのもと、今のチームしらとりにどのような学びが必要かを考え、研修等をチーム力向上PTとして企画運営する。</p> <p>しらとり支援学校が、子供たちや教職員にとって、希望や目標を見つけて安心・安全に思い切り活動ができる学びの場になることを目指し、私たち教職員の資質・能力およびチーム力の向上に努めていきたい。</p>	
達成目標	「チーム力向上プロジェクト」の企画・実施	チーム力向上PTが主催する勉強会(夏季休業中の集中講座を含む)への参加人数
	年間五つ以上	延べ100人以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・チーム力向上PTにおいて、メンバーが知恵を出し合って「チーム力向上プロジェクト」を計画・実行する。</li><li>・専門性を担保する上でしらとり支援学校のスタッフが身に付けておくべき事柄について、機を捉えて話題提供を行う。（校内のリソースを活用して校内の教職員に話題提供を依頼したり、参考となる動画コンテンツやSNSなどの紹介をしたりすることも含む）</li><li>・PTメンバーが教職員のニーズに基づいた勉強会を企画し、教職員が自分の課題解決に向けて主体的に学ぶ機会を設ける。（夏季休業中の自主研修会の機会も活用する）</li><li>・職員会議後の10～15分程度の時間を有効に活用する。教職員の負担にならないように、実施時期や時間、参加方法等に配慮する。</li></ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

重点項目	学校生活（防災体制の整備）	
重点課題	災害発生後のより確実で安全な保護者への引き渡しの体制整備	
現 状	<p>昨年度は「地震に対する防災体制の充実」を重点課題として、地震時に児童生徒が主体的に避難行動をとれることと地震における避難マニュアルの学習会の実施を目標に取り組みを行った。大きな災害が発生した際には、避難するだけでなく、保護者への引き渡しを行うこととなる。昨年度はコロナ禍明けで、久しぶりに引き渡し訓練を学部別に行った。</p> <p>保護者への引き渡しは、災害発生後すぐに授業の復帰が困難なときや、通学バスが運行できないときを想定している。昨年度の訓練後の課題と反省としては、どのような基準、タイミングで引き渡しを行うか、全校児童生徒が同時に引き渡しを行えるのか、保護者の駐車場があるのか、送迎がスムーズに行えるかなどの意見が挙げられた。</p> <p>そこで、全校での引き渡し訓練を実施するとともに、災害発生から引き渡しまでのマニュアルを見直して教職員に周知する必要がある。</p>	
達成目標	全校引き渡し訓練の実施	引き渡し時のマニュアルの見直し、マニュアルの学習会の実施
	2回	2回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校引き渡し訓練を2回実施する。1回目の反省を受けて改善を行い、2回目を実施する。</li> <li>・引き渡し時のマニュアルを見直し、見直した内容を教職員が理解して行動できるよう学習会を行う。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

重点項目	学習活動（図書委員会の活動の充実）	
重点課題	読書活動の充実を目指した図書委員会の活動	
現 状	<p>児童生徒の活字離れ、読書離れの傾向は社会の現状と同じく本校でも大きな課題である。また、障害の重度化・多様化に伴い、本に対する興味・関心が薄く、言葉や文字を媒介として学習することが困難な児童生徒が増えており、児童生徒の読書習慣が身に付きにくい。また図書への興味・関心も多方面にわたっている。図書室管理として、貸し出しや閲覧などを通して、図書室の積極的な利用を促すとともに、展示コーナーや提示などの環境設定を工夫し、楽しい雰囲気づくりに努めているが、クラスによっては年間を通してあまり利用しないことがある。</p> <p>一方、小学部では数年にわたり巡回司書による読み聞かせを行ってきており、過去に図書委員会で読み聞かせのビデオを撮影し、学部集会で楽しく視聴してきた経緯がある。また、全校的にも読み聞かせには興味関心が高く好きな児童生徒が多い。</p> <p>そこで、校内読書週間を中心に図書委員を中心にした読み聞かせを行い、回数を重ねることで本に対する興味関心を深め読書のきっかけを増やしたいと考える。また、読書週間に児童生徒の読んだ本やお勧めする本を書いた「読書の木」を作成し、読書に対する意欲や発表の機会としたい。</p>	
達成目標	図書委員による読み聞かせの回数 （ビデオによるものも含む）	「読書の木」に参加した児童生徒ののべ数
	5回以上	全校児童生徒の80%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部図書委員による読み聞かせビデオの作成と上映を行う。</li> <li>・中高等部図書委員による小学部への読み聞かせを実施する。</li> <li>・中高等部図書委員中心に読書週間に「読書の木」を2本作成し、全校児童生徒に参加してもらう。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）